日本認知言語学会第11回全国大会プログラム　【２日目】

９月12日（日）　受付９時10分から（受付は１日目に受付を済まされていない方だけで結構です）

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		14号館D201	14号館D301	14号館D302	14号館D401	14号館D402	14号館D501
		司会：本多啓（神戸市外国語大学）	司会：吉村公宏（奈良教育大学）	司会：三宅登之（東京外国語大学）	司会：伊藤健人（群馬県立女子大学）	司会：高橋英光（北海道大学）	司会：小早川暁（獨協大学）
第1発表	9:30 ｜ 10:10	④「身体化及び脱身体化による概念形成：RESTLESSとBORINGの形成を通して」 寺西隆弘（同志社大学）	④「プロトタイプ理論を用いた英語前置詞の実践的授業」 高橋千佳子（東京純心女子大学）・金子智香（茨城大学[非常	④「中国語の〝涼〟に関わる意味拡張について」 呉沛珊（大阪大学[院]）	④「「てある」構文について―構文と文法化の視点から―」 嶋田紀之（東京大学[院]）	④「N+V-ing型英語複合名詞についての認知言語学的考察」 中馬隼人（京都大学[院]）	④〝Classifier and bounding〟 屈　莉（金沢大学[院]）
第2発表	10:10 ｜ 10:50	⑤「知覚動詞の視点の身体性と主観性」 高嶋由布子（京都市立芸術大学[非常勤]）	⑤「認知文法を参照した学習英文法設計の観点から、動詞の2つの用法の整理を試みる」 今井隆夫（愛知みずほ大学）	⑤「日中同形多義語＜深/浅＞の意味構造対照分析」 徐蓮（北京外国語大学[院]・お茶の水女子大学[院]）	⑤「複文構造を持つ2種類の日本語存在文の比較対照」 大西美穂（名古屋大学[院]）	⑤「動詞連続構文に関する構文文法的考察」 森下裕三（神戸大学[院]）	⑤「英語可算性のダイナミズム―その身体的・認知的基盤と言語運用からの説明―」 木本幸憲（京都大学[院]）
休憩（10分）							
		司会：籾山洋介（名古屋大学）	司会:今井忍（大阪大学）	Chair: Kaoru Horie (Nagoya University)	司会:尾谷昌則（法政大学）	司会：加藤重広（北海道大学）	司会：坪井栄治郎（東京大学）
第3発表	11:00 ｜ 11:40	⑥「スウェーデン語における「味を表す表現」の収集と分類」 武藤彩加（琉球大学）	⑥「「出す」の意味構造に関する実験的研究：日本語学習辞典の開発のために」 森山新（お茶の水女子大学大学院）	⑥〝Synesthetic generalization revisited: a new perspective based on onomatopoetic words〟 Chiarung Lu (National Taiwan University)	⑥「「AとBは友達だ」の解釈について―対称性の観点から」 野呂健一（名古屋大学学術研究員）	⑥「中国語における心理述語使役文の意味と機能―日本語の感情形容詞表出文との対照を通して―」 王安（関西学院大学）	⑥「アクティヴ・ゾーン現象のフレーム的分析 - 部分-全体関係の統合的記述を目指して」 野澤元（京都外国語大学）
第4発表	11:40 ｜ 12:20	⑦「抽象概念を表す漢語名詞に付随する意味的韻律」 大石亨（明星大学）	⑦「意味変化における再分析の役割―複合動詞「V+こむ」を事例に」 金光成（京都大学[院]）	⑦〝The Inferential Evidentials in Japanese and Chinese〟 呉蘭（東北大学[院]）	⑦「「XばXほどY」構文のカテゴリー構造―構文文法論の観点から―」 小林翠（大阪大学[院]）	⑦「量の多さを表す副詞的成分の意味分析―「よく」と「たくさん」」 金奈淑（名古屋大学[院]）	⑦「時間表現で用いられる指示詞に関する認知言語学的考察―「コ系指示詞＋空間表現」と「今＋空間表現」の対比を中心に―」 田口慎也（京都大学[院]）

昼食休憩（12:20～14:00　ポスターセッションを含む）

ポスターセッション（14号館D602室）	12:50 ｜ 13:50	「英語の前置詞つき受動文―transitivityの拡張と概念構造を中心に―」 冬野美晴（西南学院大学[院]）	「名詞に含まれる時間性の考察―「始まる」「終わる」で示されるものを通して―」 寺崎知之（京都大学[院]）	「〈敬意〉と〈皮肉〉を表す〈おばさん〉の背景について　―〈自嘲〉表現を中心にして―」 齊藤佳子（名古屋大学[院]）	「構文間の関係に関する構文観の変換―構文の円錐モデルの提案―」 年岡智見（京都大学[院]・日本学術振興会特別研究員）	「Take (Have, Give) a V 構文の意味・機能分析」 井口智彰（関西学院大学[院]）	「自閉症のコミュニケーション不全の解明に認知言語学は寄与しうるか」 矢幡洋（西武文理大学[非常勤]）
		「ある幼児の動詞・形容詞否定形の習得：標準語と京都弁の併用から」 窪田美穂子（東北福祉大学）	「意味拡張に貢献する意味要素の性質―「裂く・割く」を事例に」 許永蘭（名古屋大学[院]）	「縮約に見られる主観化についての一考察　―「そりゃ（あ）」と「それは」の対照から―」 小川典子（京都大学[院]）	「国語科教育の課題―〈事態の主観的把握〉に基づく読解教育とPISA型読解教育の狭間で―」 ○高山京子（神奈川県立菅高等学校）・守屋三千代（創価大学）	以上、10件同時進行	

総会（14:00～14:10）　　会場：11号館AB01

シンポジウム （14:10～16:50） （11号館AB01）	テーマ　レトリック研究の現状と課題―認知言語学のさらなる展開に向けて―
	講師：菅野盾樹（大阪大学名誉教授）、講師：瀬戸賢一（大阪市立大学大学院文学研究科教授）、講師：楠見孝（京都大学大学院教育学研究科教授）、司会：森雄一（成蹊大学文学部教授）

＊書籍展示は、両日とも14号館ロビー